

御前にさぶらいたまふほどなりけり、この大將殿は、堀川殿すでにうせさせ給ひぬときかせ給ひて、うちに關白の事申さんと思ひ給ひて、この殿の門をとをりて、まいりて申たてまつる程に、ほり川殿のめをつゝ、らかにさしいで給へるに、みかども大將もいとあさましくおぼしめす、大將はうち見るまゝに、たちておにのまのかたにおぼしぬ、關白殿御まへにつゝ、給ひて、御けしきいとあしくて、さいごの除目をこなひにまいり給へるなりとて、藏人頭めして、關白には頼忠のおとゝ、東三條殿おとゝをととりて、小一條のなりとまきの中納言を大將になしきこゆる宣旨くだして、東三條殿をば治部卿になし聞えて、いさせ給ひて、ほどなくうせ給ひしぞかし。

〔椿葉記〕亥ゆこう○足利

義滿

は、きた山にさんさうをたて、○中

略

若公、梶井門跡へ入室ありしを、とりか

へし申され、愛子にて、いとほなやかにもてなされしほどに、○中だいにりにて、げんぶくして、義嗣と名のらる、まんわう御げんぶくの准據なるよしきこえし、御このかみをもをしのけぬべく、世にはとかく申あひしほどに、○中亥ゆこう薨じ給ふ、○鹿苑院世中は火を消たるやうにて、御あつきも、申をかるゝ、むねもなし、此若公にてやと、さたありしほどに、管領勘解由小路左衛門督入道をしはからひ申て、嫡子大樹相續せらる、其後内大臣までなられて、出家せられき、此若公は昇進だいなごんまでなられしに、野心のくはだてやありけん、露顯して通世し給を、たづねいだされて、林光院といふ寺におしこめて、つゝにうたれ給にき。

## 貞

貞ハミサヲト云フ、婦ノ能ク其夫ニ事ヘテ誠ヲ盡スヲ謂フナリ、此篇ニハ夫ノ難ニ臨ミ、若シクハ其死ヲ聞キテ共ニ命ヲ致シ、或ハ夫ノ惡疾ヲ厭ハズシテ多年看護シ、或ハ夫ノ歿後